

2010年1月15日

一般社団法人 ジオシンセティック変形抑制工法研究会

趣 意 書

発起人 久保 幹男
大河内保彦
小浪 岳治
横田 善弘

耐震に対する社会的必要性から社会資本整備に関するコストはますます増大することが予想されている。

当研究会はかかる状況下においてジオシンセティック等の補強材を用いて、変形を許すものの道路の機能を確保し容易な修復を可能とする技術（限界状態設計法）の研究・開発・改善・普及・啓蒙活動を行う。地震・豪雨・洪水時をも視野に入れて道路機能を確保し、かつ地震・豪雨・洪水後において速やかな復旧を目指すものである。

現在のところ当該技術の信頼性は低く普及にいたっていない。そこで当該技術の確立・普及の為 ジオシンセティック材料供給者が集まり切磋琢磨し、また産官学各界の学識経験者の研究・指導・参加を仰ぎながら 付加価値工法を次々創造していくことを目的とする。

具体的には、まずジオシンセティック液状化変形抑制工法（盛土直下部における平面補強材＋砕石挟み込み工法）の性能を評価し、設計・施工法の確立と建設技術審査証明書の取得を目指す。

特に地震と豪雨・洪水災害への対策は 日本は言うに及ばず世界的にも緊要なこととなってきている。当研究会はその動きに一石を投ずるものであり、提案・具現化を行いつつ 価値ある未来への創造に寄与し続けるものである。

以上

研究会の運営

収入：正会員（法人・個人）入会金・正会員（法人・個人）年会費・施工会員入会金・
施工会員年会費・一時会員年会費・書籍・パンフレット等の販売・特許関連事務
手数料など

支出：研究開発費^注（試験費・F E M費・審査証明書取得経費など）、普及・啓蒙活動費
（季刊発行、ホームページ、市場調査など）、事務費など

注：ジオシンセティック液状化変形抑制工法に関する研究開発費は、2010年未までは東
京都の助成をエターナルプレザーブ社にて50%得ている。